

令和3年度生活支援体制整備事業生活支援コーディネーター業務の実績報告

1 活動実績（4月～2月の実績）

		令和元年度	令和2年度	令和3年度
地域・団体との関わり (集いの場に出向き、 実態把握を行った件数)		86件 7.8件/月	16件 1.5件/月	22件 2.0件/月
ヒアリング (地域住民等から 情報収集を行った件数)		876件 79.6件/月	481件 43.7件/月	235件 21.4件/月
協議体開催 (地域課題についての 協議の場の開催回数)		20回 1.8回/月	5回 0.5件/月	3回 0.3件/月
きよす 家事サポーター 養成講座	開催形式	集合	DVD視聴	DVD視聴
	開催回数	2回		
	参加人数	33名	3名	5名
	登録希望	13名	0名	0名

<参考>ヒアリング対象者数・割合（4月～2月の実績）

	地域住民	民生委員	医療機関	ケアマネジャー	サービス提供者	包括支援センター	社会福祉協議会	行政	企業	(学校など) その他	計
令和元年度	483件 55.1%	14件 1.6%	22件 2.5%	21件 2.4%	50件 5.7%	94件 10.7%	97件 11.1%	12件 1.4%	39件 4.5%	44件 5.0%	876件 100%
令和2年度	230件 47.8%	9件 1.9%	9件 1.9%	11件 2.3%	14件 2.9%	31件 6.4%	86件 17.9%	2件 0.4%	67件 13.9%	22件 4.6%	481件 100%
令和3年度	136件 57.9%	2件 0.8%	3件 1.3%	3件 1.3%	1件 0.4%	22件 9.4%	20件 8.5%	1件 0.4%	40件 17.0%	7件 3.0%	235件 100%

2 今年度の成果

昨年度と同様にコロナ禍による活動が制限されている中、SNSや広報紙を新たに作成するなど活動方法を再考し、次の事業成果が得られた。

- ① 医療・介護資源マップ等を活用した地域資源の見える化
 - ・ 集いの場や地域の支え合い活動の情報を発信する広報紙「つながろう」（第1号・第2号別紙）を作成し、寿会やボランティア、ケアマネージャー等に配布をすることで、社会参加の促進と新たな支え合い活動創出のきっかけづくりを行った。
- ② 生活支援の担い手の養成及び生活支援等サービスの開発
 - ・ 「コロナ下での活動のヒント集」（別紙）を作成しボランティア等に配布をすることで、見守り訪問やプレゼントを配布しながらの安否確認等、新たな支え合いの仕組みを創出した。

- ・ コロナ禍での地域活動メニューとして、屋外で行うモルックや、個人で行う健康けん玉を提案。モルックを貸出備品として整備し、社協日より「てとて」による啓発を行った。
 - ・ 社協SNSを立ち上げ、若い世代を中心に福祉活動の啓発と参加促進を行った。
- ③ ニーズと地域資源のマッチング
- ・ 清須音頭体操のDVDを作成し、市役所・清洲総合福祉センターで配布したことで、自宅での運動を促しコロナ下での介護予防の推進を行った。
 - ・ 身近な地域で福祉や健康に関する学びの場がほしいという住民の要望と、専門分野を生かして講座を開催したいという企業の要望を受け、企業と社協のコラボ講座（血管年齢・骨の強度測定会、終活講座）を開催した。
コラボ講座 参画企業2社 2回開催)
- ④ 協議体の設置に関する事務
- ・ 西枇杷島地区で協議体を開催して、参加者との意見交換を行い、地域活動の状況や課題を把握した。
協議体 1回開催 参加数 7人
 - ・ 地域づくり講演会を開催し、協議体の周知とアンケートによる協議体参加希望者の把握を行った。
講演タイトル：つながりのある地域づくり～どんな地域で暮らしたいですか？
講師：ご近所福祉クリエイション 酒井 保氏 参加数：38人
- ⑤ 家事サポーター養成講座の開催
- ・ DVD視聴による養成講座を実施したが、家事サポーター登録には繋がらなかった。

3 課題及び令和4年度の事業計画

課題	事業計画
担い手の高齢化やコロナ下での活動自粛等により停滞する地域活動を活性化する必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ◎ これまでの拠点であった清洲地区と、新たに拠点となる西枇杷島地区の2か所で協議体や講座等を開催することで、幅広い住民とのつながりを創出し、新たな担い手の発掘と地域活動の活性化を図る。 ◎ SNSやスマートフォンを活用し、オンラインでの社会参加やつながりづくり等、新たな支え合い活動について提案を行う。
既存の仕組みでは対応できないニーズを解決するため、新たな支え合いの仕組みづくりが必要である。	<ul style="list-style-type: none"> ◎ ボランティアや寿会、企業等、地域で活動している団体の連携を強化し、コラボ事業の実施等、新たな社会資源の創出を目指す。 ◎ 全国から先進的な支え合いの仕組みについて学び、社協がモデル的に実施をすることで、市内の活動団体に新たな取組の提案を行う。